

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	インターンシップ						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代					科目ナンバ-	Z23040
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	将来のキャリアに関連した就業体験を行い、社会で働くことの意義を考える						
授業の概要	企業実習に行く前の事前教育では、まずインターンシップとは何かを理解する。次に仕事への取り組み、ビジネス・マナーなど、心の準備と目的を的確にさせ、実習の効果を高めるようにする。企業での実習体験を通して、社会人として必要な資質を学び、将来自分が何をやりたいのか、それをどう実現するのかを学生が主体的に考え、取り組めるようにサポートする。また自分の将来に必要な仕事へ積極的にチャレンジできるようサポートする。						
到達目標	1. 就業体験を通じて、将来の自立と学生時代の過ごし方を含めた自分のキャリアを主体的に考え実行できるようになる。【態度・志向性】 2. 社会で働く意義を自ら捉え、自己PRや志望動機につなげることができる【態度・志向性】						
授業計画	<p>【事前学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義&ディスカッション 2. 発表の準備 3. 発表 <p>【夏休み中実習】</p> <p>実習時間は5日間35時間以上を原則とする。</p> <p>【事後学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップの振り返り（業界・業種の特徴、実習体験の成果、今後の就職活動への抱負等） 2. プレゼンテーションの内容のまとめ、掲示物（ポスター）作成 3. 総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ウェブ・新聞などで、常に社会の動きを見る。 一般常識、マナーなどの知識を深める。						
授業方法	企業・団体の職場で就業体験実習を行う。 【実務経験のある教員等による授業】 企業が、学生自身の適性や適職を発見したり、今後のキャリアの形成に役立てたりするために、就業体験を行う。日程については、後日連絡をする。						
評価基準と評価方法	事前レポート（10%）、事後レポート（10%）、事前指導（10%）、事後指導（10%）、実習先の評価（60%）で総合的に判断する。						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導・事後指導に必ず参加すること。 2. 研修は、夏休みなどの休暇中に実施するので、日程については各自注意すること。 3. 実習に伴う交通費や宿泊費などは自己負担する。 4. 事前レポート事後レポートの遅延提出、未提出は単位認定不可となります。 5. 履修者の自己都合（病気・ケガなどを含む）及び、天災、実習先の都合などで実習時間が不足した際に、実習先が不足した実習時間を補填できない場合は単位認定不可となります。 6. 登録単位数上限まで履修登録している場合、この科目は履修できません。 						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	エアライン・ホスピタリティ						
担当教員	青谷 実知代・東山 愛					科目ナンバ-	Z22090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	各部署の業務内容を把握し、どのようなホスピタリティが提供されているかを考える。						
授業の概要	業務の多様性、役割分担、専門性、等、航空業界の特性を知る。 業界各部署が提供しているハードサービス・ソフトサービス（ホスピタリティ）」を学生自身に考えさせ結論を出させる。エアライン業界の役割について考える。						
到達目標	1. エアライン業界を全般的に理解し、エアラインで提供しているサービス部分に焦点をあわせ、エアラインの業務の構成やサービスに必要な要素を理解することができる。【態度・志向性】 2. 自身の適正を見極め、キャリアプランを描くことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明、概要説明 第2回 業務の多様性・役割分担・専門性：航空業界の特性を知る 第3回 情報・予約・販売部門①：情報関連部門・営業部門の業務について 第4回 情報・予約・販売部門②：エアラインとお客様を結ぶ予約センター 第5回 空港①：受付・案内【グラウンドスタッフの業務】 第6回 空港②：地上の業務を支える【グラウンドハンドリング業務】 第7回 空港③：整備部門 第8回 空港④：貨物部門 第9回 運航①：運航業務【パイロットの仕事】 第10回 運航②：客室業務1【客室乗務員の役割】 第11回 運航③：客室業務2【客室乗務員のキャリアパス】 第12回 エアラインを支える様々な仕事：ケータリング事業 第13回 観光立国とエアライン：観光立国を目指す日本とエアラインの役割 第14回 まとめ①：総括【第2回から第14回までの内容を復習し知識の定着を図る】 第15回 まとめ②：総括【まとめ①を基に知識の確認を実施する】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前事前学習：新聞やテレビなどで航空業界関連のニュースはしっかりと情報収集・把握をしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：配布資料を読み、復習すること。（学習時間2時間）						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 各自、講義終了から次週の講義までの一週間の間で興味を持ったエアライン業界のニュースを一つ取り上げ、ニュース内容となぜ興味を持ったか、自身で考える問題点などをまとめる。講義内で発表し、全員で考察する。 【実務経験のある教員等による授業】 過去にエアライン業界で働いていた講師が業務の現場について指導する。エアラインに関する様々な役割分担の専門性、特性を指導し、将来エアラインのキャリア形成に役立てる講義を展開する。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物30%（各回講義テーマに沿った内容についてのレポート） ・第15回まとめレポート50% ・平常点20%（授業内での質疑応答や課題（授業前事前学習）に対する考察や提案など） ・詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
履修上の注意	・授業中の各テーマに沿ってレポート作成を行う。授業内容を理解し、受講生自身の考えが自分の言葉で表現できるように講義を受けることを期待する。 ・エアラインの多様な業務を知ること、職業選択の意識を高め将来の視野を広げて頂きたい。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。 ・夏季エアライン講座を受講希望の際は当該講義を履修のこと。 ・「ホスピタリティ・マネジメント」履修中または履修済の者に限り、履修可能です。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配布するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	岩田 英以子・下方 恵理					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1) 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 自分を知ることができます。（態度・志向性） (2) コミュニケーション能力を磨くことができます。（汎用的技能） (3) 目標を立て実行することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 GPS-Academicテスト解説 第3回 キャリアセンターガイダンス 第4回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第5回 大学で伸ばしたい力を考える 第6回 自分について考える/PDCAシート②記入 第7回 自分をアピールするには？ 第8回 なりたい自分について考える 第9回 女性のライフプランを考える/PDCAシート②振り返り 第10回 社会について理解する/PDCAシート③記入 第11回 業界について理解する 第12回 社会で求められる力/PDCAシート③振り返り 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート①振り返り 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。（学習時間半期合計7.5時間） 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。（学習時間週1時間） ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。（学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計7.5時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。						

履修上の注意	<p>(やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。)</p> <p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。</p> <p>⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。)</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。</p> <p>⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。</p> <p>⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	木場 律志・下方 恵理					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1) 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 自分を知ることができます。（態度・志向性） (2) コミュニケーション能力を磨くことができます。（汎用的技能） (3) 目標を立て実行することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 GPS-Academicテスト解説 第3回 キャリアセンターガイダンス 第4回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第5回 大学で伸ばしたい力を考える 第6回 自分について考える/PDCAシート②記入 第7回 自分をアピールするには？ 第8回 なりたい自分について考える 第9回 女性のライフプランを考える/PDCAシート②振り返り 第10回 社会について理解する/PDCAシート③記入 第11回 業界について理解する 第12回 社会で求められる力/PDCAシート③振り返り 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート①振り返り 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。（学習時間半期合計7.5時間） 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。（学習時間週1時間） ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。（学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計7.5時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。						

履修上の注意	<p>(やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。)</p> <p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。</p> <p>⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。)</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。</p> <p>⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。</p> <p>⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	楠木 新・城戸 さち子					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1) 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 自分を知ることができます。（態度・志向性） (2) コミュニケーション能力を磨くことができます。（汎用的技能） (3) 目標を立て実行することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 GPS-Academicテスト解説 第3回 キャリアセンターガイダンス 第4回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第5回 大学で伸ばしたい力を考える 第6回 自分について考える/PDCAシート②記入 第7回 自分をアピールするには？ 第8回 なりたい自分について考える 第9回 女性のライフプランを考える/PDCAシート②振り返り 第10回 社会について理解する/PDCAシート③記入 第11回 業界について理解する 第12回 社会で求められる力/PDCAシート③振り返り 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート①振り返り 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。（学習時間半期合計7.5時間） 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。（学習時間週1時間） ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。（学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計7.5時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。						

履修上の注意	<p>(やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。)</p> <p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。</p> <p>⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。)</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。</p> <p>⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。</p> <p>⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	黒木 邦彦・城戸 さち子					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1) 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 自分を知ることができます。（態度・志向性） (2) コミュニケーション能力を磨くことができます。（汎用的技能） (3) 目標を立て実行することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 GPS-Academicテスト解説 第3回 キャリアセンターガイダンス 第4回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第5回 大学で伸ばしたい力を考える 第6回 自分について考える/PDCAシート②記入 第7回 自分をアピールするには？ 第8回 なりたい自分について考える 第9回 女性のライフプランを考える/PDCAシート②振り返り 第10回 社会について理解する/PDCAシート③記入 第11回 業界について理解する 第12回 社会で求められる力/PDCAシート③振り返り 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート①振り返り 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。（学習時間半期合計7.5時間） 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。（学習時間週1時間） ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。（学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計7.5時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。						

履修上の注意	<p>(やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。)</p> <p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。</p> <p>⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。)</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。</p> <p>⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。</p> <p>⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	千歳 万里・皆光 瑞穂					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1) 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 自分を知ることができます。（態度・志向性） (2) コミュニケーション能力を磨くことができます。（汎用的技能） (3) 目標を立て実行することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 GPS-Academicテスト解説 第3回 キャリアセンターガイダンス 第4回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第5回 大学で伸ばしたい力を考える 第6回 自分について考える/PDCAシート②記入 第7回 自分をアピールするには？ 第8回 なりたい自分について考える 第9回 女性のライフプランを考える/PDCAシート②振り返り 第10回 社会について理解する/PDCAシート③記入 第11回 業界について理解する 第12回 社会で求められる力/PDCAシート③振り返り 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート①振り返り 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。（学習時間半期合計7.5時間） 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。（学習時間週1時間） ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。（学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計7.5時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。						

履修上の注意	<p>(やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。)</p> <p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。</p> <p>⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。)</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。</p> <p>⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。</p> <p>⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	戸田 賀志子・野中 容子					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1) 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 自分を知ることができます。（態度・志向性） (2) コミュニケーション能力を磨くことができます。（汎用的技能） (3) 目標を立て実行することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 GPS-Academicテスト解説 第3回 キャリアセンターガイダンス 第4回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第5回 大学で伸ばしたい力を考える 第6回 自分について考える/PDCAシート②記入 第7回 自分をアピールするには？ 第8回 なりたい自分について考える 第9回 女性のライフプランを考える/PDCAシート②振り返り 第10回 社会について理解する/PDCAシート③記入 第11回 業界について理解する 第12回 社会で求められる力/PDCAシート③振り返り 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート①振り返り 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。（学習時間半期合計7.5時間） 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。（学習時間週1時間） ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。（学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計7.5時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。						

履修上の注意	<p>(やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。)</p> <p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。</p> <p>⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。)</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。</p> <p>⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。</p> <p>⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	枅井 智英・野中 容子					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるためのキャンパスライフの計画を立てます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この講座を受講して、以下の2点に近づきます。 (1) 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 自分を知ることができます。（態度・志向性） (2) コミュニケーション能力を磨くことができます。（汎用的技能） (3) 目標を立て実行することができます。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 GPS-Academicテスト解説 第3回 キャリアセンターガイダンス 第4回 大学生活について考える/PDCAシート①記入 第5回 大学で伸ばしたい力を考える 第6回 自分について考える/PDCAシート②記入 第7回 自分をアピールするには？ 第8回 なりたい自分について考える 第9回 女性のライフプランを考える/PDCAシート②振り返り 第10回 社会について理解する/PDCAシート③記入 第11回 業界について理解する 第12回 社会で求められる力/PDCAシート③振り返り 第13回 目標を達成するためには？/PDCAシート①振り返り 第14回 キャンパスライフカレンダー作成 第15回 キャンパスライフカレンダー発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習 ・社会について知るため、最近のニュースを調べます。（学習時間半期合計7.5時間） 授業後学習 ・授業内で考えた内容を、将来を考えるための素材として、松蔭manabaに入力し保存しておいてください。（学習時間週1時間） ・宿題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。（学習時間週2時間） ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。（学習時間半期合計7.5時間）						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、講義とワークから成り立つ初年次向けキャリアデザインのテキストを使いながら、1年生を対象としたキャリアデザインを指導する。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート及びワークシート等の課題提出60%として、総合的に判断します。 ■平常点について ・コミュニケーションシートを提出していただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合、平常点は0点になります。 ・講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点、減点をします。 ■レポートやワークシートについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものを提出してください。 *具体的な課題内容については講座中に発表し、時間内に提出してもらう予定です。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。						

履修上の注意	<p>(やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。)</p> <p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。</p> <p>⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。)</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。</p> <p>⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。</p> <p>⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p> <p>また、なりたい自分になるため、この講座の終了後は、キャリアデザインⅡの履修をすることが望ましいです。</p>
教科書	『書き込み式 キャンパスライフデザインBook』(noa出版)
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	青谷 実知代・田中 フミヨ					科目ナンバ-	Z21020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	なりたい自分になるため、女性としての生き方を考え、社会で求められる基本的スキルを修得します。						
授業の概要	3年冬からの本格的な就職活動に臨む前に、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。 キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、「社会で求められる基本的スキル」を修得します。また、これらを大学生活の中で身につけられるように導きます。 この講座を受講することにより、 (1) 社会に出る(就職)ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) 女性としての生き方を考え、マナーや敬語、コミュニケーションのケースワークを学ぶことで後の就職活動に役立てることができます。 (3) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 社会で求められるコミュニケーションを身につけることができる(汎用的技能) (2) 女性としての生き方を学び、自分に適した(したい)仕事、働き方、生き方について考えることができる(態度・志向性) (3) 内省し成長することができる(態度・志向性)						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 コミュニケーション① 傾聴、アサーション 第3回 女性のライフプラン① 「おひとりさま」生活 第4回 女性のライフプラン② 男と女の「就労」 第5回 女性のライフプラン③ ワーママのキャリア 第6回 女性のライフプラン④ 「働く」とはなにか 第7回 リーダーシップの在り方 第8回 コミュニケーション② インタビュー1 第9回 小論文・作文試験対策 第10回 コミュニケーション③ インタビュー2 第11回 シューカツ体験① ～基礎編～ 第12回 シューカツ体験② ～実践編～ 第13回 印象とマナー 第14回 ビジネスマナー 第15回 自立した女性を目指して今からやるべきこと						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習 ・各授業で扱うテーマに関するニュースなど下調べします。(学習時間週1時間) 授業後学習 ・授業内で気づいたこと、学んだことなどを、日々意識し計画を立てること、行動に移すこと、振り返り確認すること、そして改善することが自身の成長に繋がります。(学習時間週2時間) ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。(学習時間半期合計15時間)						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、ジェネリック・スキルの養成や女性としての生き方考えさせる。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポートやワークシート等の課題提出60%を基準とし、総合的に判断します。 ① コミュニケーションシートを記入。(40点満点：テーマは講師が指定) コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合、平常点は0点になります。また、講義への参加態度(積極性、主体性、協調性など)もここに含みます。 ② 講師が指定するワークシートの取り組みやレポートを提出。(60点満点) *具体的な課題内容については講座中に発表します。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ① 毎回、出席しましょう。 ② 毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③ 授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。(やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。) ④ ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤ スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。						

履修上の注意	⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。
教科書	なし
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	青谷 実知代・田中 フミヨ					科目ナンバ-	Z21020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	なりたい自分になるため、女性としての生き方を考え、社会で求められる基本的スキルを修得します。						
授業の概要	3年冬からの本格的な就職活動に臨む前に、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。 キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、「社会で求められる基本的スキル」を修得します。また、これらを大学生活の中で身につけられるように導きます。 この講座を受講することにより、 (1) 社会に出る(就職)ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 (2) 女性としての生き方を考え、マナーや敬語、コミュニケーションのケースワークを学ぶことで後の就職活動に役立てることがあります。 (3) あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	(1) 社会で求められるコミュニケーションを身につけることができる(汎用的技能) (2) 女性としての生き方を学び、自分に適した(したい)仕事、働き方、生き方について考えることができる(態度・志向性) (3) 内省し成長することができる(態度・志向性)						
授業計画	第1回 キャリアデザインとは？ 第2回 コミュニケーション① 傾聴、アサーション 第3回 女性のライフプラン① 「おひとりさま」生活 第4回 女性のライフプラン② 男と女の「就労」 第5回 女性のライフプラン③ ワーママのキャリア 第6回 女性のライフプラン④ 「働く」とはなにか 第7回 リーダーシップの在り方 第8回 コミュニケーション② インタビュー1 第9回 小論文・作文試験対策 第10回 コミュニケーション③ インタビュー2 第11回 シューカツ体験① ～基礎編～ 第12回 シューカツ体験② ～実践編～ 第13回 印象とマナー 第14回 ビジネスマナー 第15回 自立した女性を目指して今からやるべきこと						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習 ・各授業で扱うテーマに関するニュースなど下調べします。(学習時間週1時間) 授業後学習 ・授業内で気づいたこと、学んだことなどを、日々意識し計画を立てること、行動に移すこと、振り返り確認すること、そして改善することが自身の成長に繋がります。(学習時間週2時間) ・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて報告します。(学習時間半期合計15時間)						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してください。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービス事業から講師を招き、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、ジェネリック・スキルの養成や女性としての生き方考えさせる。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポートやワークシート等の課題提出60%を基準とし、総合的に判断します。 ① コミュニケーションシートを記入。(40点満点：テーマは講師が指定) コミュニケーションシートの提出が5回以下の場合、平常点は0点になります。また、講義への参加態度(積極性、主体性、協調性など)もここに含みます。 ② 講師が指定するワークシートの取り組みやレポートを提出。(60点満点) *具体的な課題内容については講座中に発表します。						
履修上の注意	この講座は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ① 毎回、出席しましょう。 ② 毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、宿題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③ 授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。(やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。) ④ ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤ スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。						

履修上の注意	⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、講座の運営を乱す等、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。
教科書	なし
参考書	なし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザイン研究						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代					科目ナンバ-	Z23030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	業界・業種を深く理解すると共に、昨今の取り組みについてゲストスピーカー（現場担当者）から直接伺い、社会の実態を理解し、主体的に就職活動を取り組める力（志望動機や自己PR、伝える力、質問力など）を養う。						
授業の概要	「職業生涯における仕事の経験の連鎖あるいはその蓄積」と定義づけられるキャリアであるが、IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい中、キャリアの本質に迫れないことも事実である。そこで、現場で実践を積んでおられる多様な業界・業種から講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観そして問題点を学び、自分自身の成長・発達につなげると共に、「総合知」でキャリアデザインが研究を深めていく。						
到達目標	①職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけることができる。（知識・理解） ②業種と業界の違いを理解し、自らの興味・関心の領域をより具体的なものとして意識することができる。（態度・志向性） ③就職活動で活かせる志望動機や自己PRが書けるようになる。（汎用的技能）						
授業計画	<p>本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。また本年度は、各社グループ関連企業についても理解を深めてもらう。</p> <p>第1回 業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える：青谷実知代 第2回 西日本旅客鉄道（株）神戸支社 第3回 （株）ホテルグランヴィア大阪 第4回 西日本旅客鉄道（株）営業本部 第5回 JR西日本SC開発（株） 第6回 （株）JRコミュニケーションズ 第7回 （株）サンスターライン 第8回 パシフィックコンサルタンツ（株） 第9回 （株）竹中工務店 第10回 あずさ監査法人 第11回 （株）東急エージェンシー 第12回 企業未定 第13回 企業未定 第14回 （株）AMADEUS または 元川崎重工業（株） 第15回 業界の様々な取り組みとキャリアデザイン（総まとめ）青谷実知代</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：日頃から新聞や各種業界雑誌を読むように心がける。関心ある業界の傾向をつかむ。【2時間】 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。【2時間】						
授業方法	オムニバス形式の講義 【実務経験のある教員等による授業】 毎回各業界（卸小売・製造・サービス・金融等）からゲストスピーカーが、その業界の現状を伝え、就職活動で生かせる知識を指導する。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物（70%）：各回提出のリアクションペーパー ・課題レポート（30%）：業界・業種の理解度、業界に関する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。						
履修上の注意	大学3年生を対象とする。 ※ただし、その他の学年で聴講希望があれば、事前にキャリアセンターへ連絡すること。 20分以上の遅刻は欠席扱いにする。 講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザイン研究						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代					科目ナンバ-	Z23030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	業界・業種を深く理解すると共に、昨今の取り組みについてゲストスピーカー（現場担当者）から直接伺い、社会の実態を理解し、主体的に就職活動を取り組める力（志望動機や自己PR、伝える力、質問力など）を養う。						
授業の概要	「職業生涯における仕事の経験の連鎖あるいはその蓄積」と定義づけられるキャリアであるが、IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい中、キャリアの本質に迫れないことも事実である。そこで、現場で実践を積んでおられる多様な業界・業種から講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観そして問題点を学び、自分自身の成長・発達につなげると共に、「総合知」でキャリアデザインが研究を深めていく。						
到達目標	①職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけることができる。（知識・理解） ②業種と業界の違いを理解し、自らの興味・関心の領域をより具体的なものとして意識することができる。（態度・志向性） ③就職活動で活かせる志望動機や自己PRが書けるようになる。（汎用的技能）						
授業計画	<p>本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。また本年度は、各社グループ関連企業についても理解を深めてもらう。</p> <p>第1回 業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える：青谷実知代 第2回 【運輸業界】 第3回 【流通・小売業界】 第4回 【エンターテインメント業界】 第5回 【通信業界】 第6回 【メディア業界】 第7回 【輸送・重工業（輸送用機器類）】 第8回 【新聞業界】 第9回 【放送業界】 第10回 【化粧品業界】 第11回 【アパレル業界】 第12回 【プライダル業界】 第13回 【花卉業界】 第14回 【商社（外資系も含む）業界】 第15回 業界の様々な取り組みとキャリアデザイン（総まとめ）青谷実知代</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：日頃から新聞や各種業界雑誌を読むように心がける。関心ある業界の傾向をつかむ。【2時間】 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。【2時間】						
授業方法	オムニバス形式の講義 【実務経験のある教員等による授業】 毎回各業界（卸小売・製造・サービス・金融等）からゲストスピーカーが、その業界の現状を伝え、就職活動で生かせる知識を指導する。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物（70%）：各回提出のリアクションペーパー ・課題レポート（30%）：業界・業種の理解度、業界に関する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。						
履修上の注意	大学3年生を対象とする。 ※ただし、その他の学年で聴講希望があれば、事前にキャリアセンターへ連絡すること。 20分以上の遅刻は欠席扱いにする。 講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識／企業の基礎知識						
担当教員	倉島 進					科目ナンバ-	Z22050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業を取り巻く経済と企業に関する基本的な知識を習得する。						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスパーソンとして必要な経済と企業に関する基本的な知識について、就職活動にも活かすことができるよう厳選して講義します。 ・経済に関する基本的な知識では、お金の存在意義から経済の仕組みを解き明かすと共に、経済における政府・企業・個人の役割について解説します。また、経済用語は、無理に暗記するのではなく自然に体得できるよう、最近のニュースを取り上げて解説します。 ・企業に関する基本的な知識では、企業の経営や組織の仕組み、必要とされる仕事（業務）、企業の数字（会計）といった企業に関するさまざまな内容について、その概略を解説します。また、就職から退職までの流れや、労働者としての権利、企業の社会的な存在意義や責任についても解説します。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済や企業に関するニュースを理解するために必要な基本的な知識が何であるか理解することができる。【知識・理解】 ・習得した基本的な知識を用いて、経済や企業に関するニュースを理解することができる。【知識・理解】 ・経済や企業に関するニュースに能動的に接し、自分と企業、企業を通じて自分と社会の関係性について意識することができる。【態度・志向性】 						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（自分・社会・企業との関係性、経済とは何か、企業とは何か）</p> <p>第2回 経済に関する基礎知識①（お金の存在意義とカネの流れ、日本銀行の金融政策等）</p> <p>第3回 経済に関する基礎知識②（モノの流れと価格、日本政府の財政政策等）</p> <p>第4回 経済に関する基礎知識③（日本の経済状況等）</p> <p>第5回 経済に関する基礎知識④（日本政府の財政状況とその収入源である税金のしくみ）</p> <p>第6回 企業に関する基礎知識①（ビジネスとは、業界とは）</p> <p>第7回 企業に関する基礎知識②（業界の分析）</p> <p>第8回 企業に関する基礎知識③（企業とは）</p> <p>第9回 企業に関する基礎知識④（株式会社とは、企業の経営）</p> <p>第10回 企業に関する基礎知識⑤（企業の組織のしくみ）</p> <p>第11回 企業に関する基礎知識⑥（職種とは、職種の分析）</p> <p>第12回 企業の総合的な分析①（定性的な分析プロセス）</p> <p>第13回 企業の総合的な分析②（定量的な分析プロセス・会計）</p> <p>第14回 個人と企業との関わり方①（労働者として関わる生き方）</p> <p>第15回 個人と企業との関わり方②（投資家マインドをもった労働者として関わる生き方）、総まとめ</p> <p>【留意点】 受講者数、受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をする可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習ももちろん望ましいですが、どちらかといえば授業後の学習を徹底してください。</p> <p>授業前準備学習： この授業は、思考の連続性を重視しているため、絶えず全体像を意識していただきたいと思っています。授業が進み回数を重ねるほど個別具体的な話も多くなるため、全体像が見えなくなる可能性があります。それを回避するためには、場合によっては学んだ範囲すべてを定期的に短時間で見直す必要が出てきます。それが結果として次回の授業前準備学習となります。 （学習時間：週2時間）</p> <p>授業後学習： ・授業資料や講義の中で指示した文献（動画）を読む（視聴する）などして、各回授業の復習（振り返り）をしてください。また、経済や企業に関するニュースに注目しておいてください。媒体は問いません。 ・授業中に、明示的に暗示的に、各回のテーマや中間・期末レポートにつながる問いを、随時投げかけます。それについて、各自意識し、調べ、ゆるやかに思考を巡らせてください。そして、感じたこと、考えたことを言語化するように努め、ご自身の意見をストックしてってください。 （学習時間：週2時間）</p>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は講義が基本となりますが、アクティブラーニング的な要素も取り入れています。 ・この授業におけるアクティブラーニングの定義は、「感じたこと・考えたことを言語化し、誰かに伝えること」です。リアクションペーパーという形や授業中に発表するという形で表現していただきます。これらを繰り返すことで、生きる力としてビジネスパーソンにも学生にも必須といわれている論理的思考力（ロジカルシンキング）を鍛えることができます。 <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、監査・税務・コンサルティング業務を通じて、ビジネスモデルの異なるさまざまな企業と関わり、その経営をサポートする実務経験を有しています。その経験を活かし、ビジネスパーソンとして必要な基本的な知識について、アクティブラーニング的な要素も取り入れた講義を通じて説明します。</p>						
評価基準と評価方法	<p>評価は、平常点にレポートを加味して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 50%：リアクションペーパー・小テスト・授業中の発表等 ・レポート 50%：中間・期末レポート（中間レポートは授業中の発表という形で実施する可能性があります） 						

履修上の注意	・思考の連続性を重視しているため、授業には、できる限り毎回出席してください。やむを得ず出席できない場合には、時間を捻出し、次回までにその内容を自分で補っておくようにしてください。 ・その他の受講に際しての注意事項（受講者の心得、授業進行上のルールなど）については、初回授業時以降、随時お伝えします。
教科書	特になし
参考書	授業内でお伝えします。

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識／企業の基礎知識						
担当教員	倉島 進					科目ナンバ-	Z22050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業を取り巻く経済と企業に関する基本的な知識を習得する。						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスパーソンとして必要な経済と企業に関する基本的な知識について、就職活動にも活かすことができるよう厳選して講義します。 ・経済に関する基本的な知識では、お金の存在意義から経済の仕組みを解き明かすと共に、経済における政府・企業・個人の役割について解説します。また、経済用語は、無理に暗記するのではなく自然に体得できるよう、最近のニュースを取り上げて解説します。 ・企業に関する基本的な知識では、企業の経営や組織の仕組み、必要とされる仕事（業務）、企業の数字（会計）といった企業に関するさまざまな内容について、その概略を解説します。また、就職から退職までの流れや、労働者としての権利、企業の社会的な存在意義や責任についても解説します。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済や企業に関するニュースを理解するために必要な基本的な知識が何であるか理解することができる。【知識・理解】 ・習得した基本的な知識を用いて、経済や企業に関するニュースを理解することができる。【知識・理解】 ・経済や企業に関するニュースに能動的に接し、自分と企業、企業を通じて自分と社会の関係性について意識することができる。【態度・志向性】 						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（自分・社会・企業との関係性、経済とは何か、企業とは何か）</p> <p>第2回 経済に関する基礎知識①（お金の存在意義とカネの流れ、日本銀行の金融政策等）</p> <p>第3回 経済に関する基礎知識②（モノの流れと価格、日本政府の財政政策等）</p> <p>第4回 経済に関する基礎知識③（日本の経済状況等）</p> <p>第5回 経済に関する基礎知識④（日本政府の財政状況とその収入源である税金のしくみ）</p> <p>第6回 企業に関する基礎知識①（ビジネスとは、業界とは）</p> <p>第7回 企業に関する基礎知識②（業界の分析）</p> <p>第8回 企業に関する基礎知識③（企業とは）</p> <p>第9回 企業に関する基礎知識④（株式会社とは、企業の経営）</p> <p>第10回 企業に関する基礎知識⑤（企業の組織のしくみ）</p> <p>第11回 企業に関する基礎知識⑥（職種とは、職種の分析）</p> <p>第12回 企業の総合的な分析①（定性的な分析プロセス）</p> <p>第13回 企業の総合的な分析②（定量的な分析プロセス・会計）</p> <p>第14回 個人と企業との関わり方①（労働者として関わる生き方）</p> <p>第15回 個人と企業との関わり方②（投資家マインドをもった労働者として関わる生き方）、総まとめ</p> <p>【留意点】 受講者数、受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をする可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習ももちろん望ましいですが、どちらかといえば授業後の学習を徹底してください。</p> <p>授業前準備学習： この授業は、思考の連続性を重視しているため、絶えず全体像を意識していただきたいと思っています。授業が進み回数を重ねるほど個別具体的な話も多くなるため、全体像が見えなくなる可能性があります。それを回避するためには、場合によっては学んだ範囲すべてを定期的に短時間で見直す必要が出てきます。それが結果として次回の授業前準備学習となります。 （学習時間：週2時間）</p> <p>授業後学習： ・授業資料や講義の中で指示した文献（動画）を読む（視聴する）などして、各回授業の復習（振り返り）をしてください。また、経済や企業に関するニュースに注目しておいてください。媒体は問いません。 ・授業中に、明示的に暗示的に、各回のテーマや中間・期末レポートにつながる問いを、随時投げかけます。それについて、各自意識し、調べ、ゆるやかに思考を巡らせてください。そして、感じたこと、考えたことを言語化するように努め、ご自身の意見をストックしてってください。 （学習時間：週2時間）</p>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は講義が基本となりますが、アクティブラーニング的な要素も取り入れています。 ・この授業におけるアクティブラーニングの定義は、「感じたこと・考えたことを言語化し、誰かに伝えること」です。リアクションペーパーという形や授業中に発表するという形で表現していただきます。これらを繰り返すことで、生きる力としてビジネスパーソンにも学生にも必須といわれている論理的思考力（ロジカルシンキング）を鍛えることができます。 <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、監査・税務・コンサルティング業務を通じて、ビジネスモデルの異なるさまざまな企業と関わり、その経営をサポートする実務経験を有しています。その経験を活かし、ビジネスパーソンとして必要な基本的な知識について、アクティブラーニング的な要素も取り入れた講義を通じて説明します。</p>						
評価基準と評価方法	<p>評価は、平常点にレポートを加味して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 50%：リアクションペーパー・小テスト・授業中の発表等 ・レポート 50%：中間・期末レポート（中間レポートは授業中の発表という形で実施する可能性があります） 						

履修上の注意	・思考の連続性を重視しているため、授業には、できる限り毎回出席してください。やむを得ず出席できない場合には、時間を捻出し、次回までにその内容を自分で補っておくようにしてください。 ・その他の受講に際しての注意事項（受講者の心得、授業進行上のルールなど）については、初回授業時以降、随時お伝えします。
教科書	特になし
参考書	授業内でお伝えします。

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識／企業の基礎知識						
担当教員	得田 知栄子					科目ナンバ-	Z22050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業を取り巻く経済と企業に関する基本的な知識を習得する。						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスパーソンとして必要な経済と企業に関する基本的な知識について、就職活動にも活かすことができるよう厳選して講義します。 ・経済に関する基本的な知識では、お金の存在意義から経済の仕組みを解き明かすと共に、経済における政府・企業・個人の役割について解説します。また、経済用語は、無理に暗記するのではなく自然に体得できるよう、最近のニュースを取り上げて解説します。 ・企業に関する基本的な知識では、企業の経営や組織の仕組み、必要とされる仕事（業務）、企業の数字（会計）といった企業に関するさまざまな内容について、その概略を解説します。また、就職から退職までの流れや、労働者としての権利、企業の社会的な存在意義や責任についても解説します。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済や企業に関するニュースを理解するために必要な基本的な知識が何であるか理解することができる。【知識・理解】 ・習得した基本的な知識を用いて、経済や企業に関するニュースを理解することができる。【知識・理解】 ・経済や企業に関するニュースに能動的に接し、自分と企業、企業を通じて自分と社会の関係性について意識することができる。【態度・志向性】 						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（自分・社会・企業との関係性、経済とは何か、企業とは何か）</p> <p>第2回 経済に関する基礎知識①（お金の存在意義とカネの流れ、日本銀行の金融政策等）</p> <p>第3回 経済に関する基礎知識②（モノの流れと価格、日本政府の財政政策等）</p> <p>第4回 経済に関する基礎知識③（日本の経済状況等）</p> <p>第5回 経済に関する基礎知識④（日本政府の財政状況とその収入源である税金のしくみ）</p> <p>第6回 企業に関する基礎知識①（ビジネスとは、業界とは）</p> <p>第7回 企業に関する基礎知識②（業界の分析）</p> <p>第8回 企業に関する基礎知識③（企業とは）</p> <p>第9回 企業に関する基礎知識④（株式会社とは、企業の経営）</p> <p>第10回 企業に関する基礎知識⑤（企業の組織のしくみ）</p> <p>第11回 企業に関する基礎知識⑥（職種とは、職種の分析）</p> <p>第12回 企業の総合的な分析①（定性的な分析プロセス）</p> <p>第13回 企業の総合的な分析②（定量的な分析プロセス・会計）</p> <p>第14回 個人と企業との関わり方①（労働者として関わる生き方）</p> <p>第15回 個人と企業との関わり方②（投資家マインドをもった労働者として関わる生き方）、総まとめ</p> <p>【留意点】 受講者数、受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をする可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習ももちろん望ましいですが、どちらかといえば授業後の学習を徹底してください。</p> <p>授業前準備学習： この授業は、思考の連続性を重視しているため、絶えず全体像を意識していただきたいと思っています。授業が進み回数を重ねるほど個別具体的な話も多くなるため、全体像が見えなくなる可能性があります。それを回避するためには、場合によっては学んだ範囲すべてを定期的に短時間で見直す必要が出てきます。それが結果として次回の授業前準備学習となります。 （学習時間：週2時間）</p> <p>授業後学習： ・授業資料や講義の中で指示した文献（動画）を読む（視聴する）などして、各回授業の復習（振り返り）をしてください。また、経済や企業に関するニュースに注目しておいてください。媒体は問いません。 ・授業中に、明示的に暗示的に、各回のテーマや中間・期末レポートにつながる問いを、随時投げかけます。それについて、各自意識し、調べ、ゆるやかに思考を巡らせてください。そして、感じたこと、考えたことを言語化するように努め、ご自身の意見をストックしてってください。 （学習時間：週2時間）</p>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は講義が基本となりますが、アクティブラーニング的な要素も取り入れています。 ・この授業におけるアクティブラーニングの定義は、「感じたこと・考えたことを言語化し、誰かに伝えること」です。リアクションペーパーという形や授業中に発表するという形で表現していただきます。これらを繰り返すことで、生きる力としてビジネスパーソンにも学生にも必須といわれている論理的思考力（ロジカルシンキング）を鍛えることができます。 <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、監査・税務・コンサルティング業務を通じて、ビジネスモデルの異なるさまざまな企業と関わり、その経営をサポートする実務経験を有しています。その経験を活かし、ビジネスパーソンとして必要な基本的な知識について、アクティブラーニング的な要素も取り入れた講義を通じて説明します。</p>						
評価基準と評価方法	<p>評価は、平常点にレポートを加味して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 50%：リアクションペーパー・小テスト・授業中の発表等 ・レポート 50%：中間・期末レポート（中間レポートは授業中の発表という形で実施する可能性があります） 						

履修上の注意	・思考の連続性を重視しているため、授業には、できる限り毎回出席してください。やむを得ず出席できない場合には、時間を捻出し、次回までにその内容を自分で補っておくようにしてください。 ・その他の受講に際しての注意事項（受講者の心得、授業進行上のルールなど）については、初回授業時以降、随時お伝えします。
教科書	特になし
参考書	授業内でお伝えします。

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識／企業の基礎知識						
担当教員	得田 知栄子					科目ナンバ-	Z22050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業を取り巻く経済と企業に関する基本的な知識を習得する。						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスパーソンとして必要な経済と企業に関する基本的な知識について、就職活動にも活かすことができるよう厳選して講義します。 ・経済に関する基本的な知識では、お金の存在意義から経済の仕組みを解き明かすと共に、経済における政府・企業・個人の役割について解説します。また、経済用語は、無理に暗記するのではなく自然に体得できるよう、最近のニュースを取り上げて解説します。 ・企業に関する基本的な知識では、企業の経営や組織の仕組み、必要とされる仕事（業務）、企業の数字（会計）といった企業に関するさまざまな内容について、その概略を解説します。また、就職から退職までの流れや、労働者としての権利、企業の社会的な存在意義や責任についても解説します。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済や企業に関するニュースを理解するために必要な基本的な知識が何であるか理解することができる。【知識・理解】 ・習得した基本的な知識を用いて、経済や企業に関するニュースを理解することができる。【知識・理解】 ・経済や企業に関するニュースに能動的に接し、自分と企業、企業を通じて自分と社会の関係性について意識することができる。【態度・志向性】 						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（自分・社会・企業との関係性、経済とは何か、企業とは何か）</p> <p>第2回 経済に関する基礎知識①（お金の存在意義とカネの流れ、日本銀行の金融政策等）</p> <p>第3回 経済に関する基礎知識②（モノの流れと価格、日本政府の財政政策等）</p> <p>第4回 経済に関する基礎知識③（日本の経済状況等）</p> <p>第5回 経済に関する基礎知識④（日本政府の財政状況とその収入源である税金のしくみ）</p> <p>第6回 企業に関する基礎知識①（ビジネスとは、業界とは）</p> <p>第7回 企業に関する基礎知識②（業界の分析）</p> <p>第8回 企業に関する基礎知識③（企業とは）</p> <p>第9回 企業に関する基礎知識④（株式会社とは、企業の経営）</p> <p>第10回 企業に関する基礎知識⑤（企業の組織のしくみ）</p> <p>第11回 企業に関する基礎知識⑥（職種とは、職種の分析）</p> <p>第12回 企業の総合的な分析①（定性的な分析プロセス）</p> <p>第13回 企業の総合的な分析②（定量的な分析プロセス・会計）</p> <p>第14回 個人と企業との関わり方①（労働者として関わる生き方）</p> <p>第15回 個人と企業との関わり方②（投資家マインドをもった労働者として関わる生き方）、総まとめ</p> <p>【留意点】 受講者数、受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をする可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習ももちろん望ましいですが、どちらかといえば授業後の学習を徹底してください。</p> <p>授業前準備学習： この授業は、思考の連続性を重視しているため、絶えず全体像を意識していただきたいと思っています。授業が進み回数を重ねるほど個別具体的な話も多くなるため、全体像が見えなくなる可能性があります。それを回避するためには、場合によっては学んだ範囲すべてを定期的に短時間で見直す必要が出てきます。それが結果として次回の授業前準備学習となります。 （学習時間：週2時間）</p> <p>授業後学習： ・授業資料や講義の中で指示した文献（動画）を読む（視聴する）などして、各回授業の復習（振り返り）をしてください。また、経済や企業に関するニュースに注目しておいてください。媒体は問いません。 ・授業中に、明示的に暗示的に、各回のテーマや中間・期末レポートにつながる問いを、随時投げかけます。それについて、各自意識し、調べ、ゆるやかに思考を巡らせてください。そして、感じたこと、考えたことを言語化するように努め、ご自身の意見をストックしてってください。 （学習時間：週2時間）</p>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は講義が基本となりますが、アクティブラーニング的な要素も取り入れています。 ・この授業におけるアクティブラーニングの定義は、「感じたこと・考えたことを言語化し、誰かに伝えること」です。リアクションペーパーという形や授業中に発表するという形で表現していただきます。これらを繰り返すことで、生きる力としてビジネスパーソンにも学生にも必須といわれている論理的思考力（ロジカルシンキング）を鍛えることができます。 <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、監査・税務・コンサルティング業務を通じて、ビジネスモデルの異なるさまざまな企業と関わり、その経営をサポートする実務経験を有しています。その経験を活かし、ビジネスパーソンとして必要な基本的な知識について、アクティブラーニング的な要素も取り入れた講義を通じて説明します。</p>						
評価基準と評価方法	<p>評価は、平常点にレポートを加味して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 50%：リアクションペーパー・小テスト・授業中の発表等 ・レポート 50%：中間・期末レポート（中間レポートは授業中の発表という形で実施する可能性があります） 						

履修上の注意	・思考の連続性を重視しているため、授業には、できる限り毎回出席してください。やむを得ず出席できない場合には、時間を捻出し、次回までにその内容を自分で補っておくようにしてください。 ・その他の受講に際しての注意事項（受講者の心得、授業進行上のルールなど）については、初回授業時以降、随時お伝えします。
教科書	特になし
参考書	授業内でお伝えします。

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ファイナンシャル・プランニング／金融リテラシー						
担当教員	村田 正一					科目ナンバ-	Z22100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、それに連動する収支・支出計画を考察する。FP技能士3級レベルの社会保険、年金制度、生命保険、資産運用、税等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものである。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金制度、生命保険、貯蓄としての預貯金や株式等への投資、そして人生の3大資金といわれる子供の教育費、住宅の購入、老後の資金、さらには財産の次世代への移管である贈与や相続などといった形で一生関わりのあるものである。この授業では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としている。						
到達目標	FP技能士3級レベルの知識を習得し、ライフプラン実現のための資金計画をどのように立てていけばいいのかが、様々なケースを想定し具体的に立案し、必要が生じれば修正することができる。(態度・志向性)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要説明 2. 【まもる】社会保険の知識その1・・・医療、介護、労働保険について理解する 3. 【まもる】社会保険の知識その2・・・年金制度について理解する 4. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来発生する様々な出来事と、どれくらいのお金がかかるかを知る 5. 【しる】ライフプランニングその1(実習)・・・グループでひとつの家庭のライフイベントを考える 6. 【しる】ライフプランニングその2(実習)・・・グループで決定した家庭のライフプランニング表を作成 7. 【しる】ライフプランニングその3(発表)・・・グループ毎に発表し、何故そうなったか考察する 8. 【まもる】リスクマネジメント(生命保険の知識)・・・生命保険のしくみを理解する 9. 【まもる】リスクマネジメント(損害保険の知識)・・・損害保険のしくみを理解する 10. 【ふやす】金融商品のしくみ(各論)・・・預貯金、債券、株式について理解する 11. 【ふやす】金融商品のしくみ(総論)・・・リスクとリターン、資産運用方法を学ぶ 12. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を習得する 13. 【つかう】不動産の知識・・・土地、建物の購入、不動産の関する法律を理解する 14. 【このす】相続に関する知識・・・相続に関する法律上知っておくべき知識や税金について理解する 15. まとめと試験・・・FP3級レベルの試験と評価 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>日頃から新聞、テレビ等で経済に関する記事やニュースに興味を持って接すること(日経平均株価、為替レート、社会保険、税金の情報など)。</p> <p>【授業前準備】当日の授業計画及び講座内容に記載しているキーワードについて、当日を含む直近の新聞記事を読み、下調べをすること(学習時間2時間)。</p> <p>【授業後学習】当日のテキストを基に新聞やFP関連誌等で復習し、「本日のまとめ」を次回授業日に提出する(学習時間2時間)</p>						
授業方法	<p>講義方式、グループワークを交え、テキストにもどづいて授業を行う。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 1級ファイナンシャル・プランニング技能士(CFP)として実際にライフプランニングに携わる経験を基に3級ファイナンシャル・プランニング資格を目指してケーススタディーを通して指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>試験成績、課題提出やレポートと授業態度(授業に臨む姿勢)を総合的に評価する。 割合は、試験50%、課題、レポート提出10%、授業態度40%</p>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電卓を準備すること。 2. テキストは各回の出席者のみ配布する。 3. 授業回数数の3分の1以上欠席した人は試験の受験資格を失うものとする。 4. 15分以上の遅刻は欠席扱いにする。 						
教科書	<p>プリントを配布する。</p> <p>社会的要請により遠隔授業に変更の場合は、「3級FPスピードマスターテキスト(東京リーガルマインド社)」を指定する。</p>						
参考書	3級FPスピードマスターテキスト(東京リーガルマインド社)						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ファイナンシャル・プランニング／金融リテラシー						
担当教員	村田 正一					科目ナンバ-	Z22100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、それに連動する収支・支出計画を考察する。FP技能士3級レベルの社会保険、年金制度、生命保険、資産運用、税等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものである。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金制度、生命保険、貯蓄としての預貯金や株式等への投資、そして人生の3大資金といわれる子供の教育費、住宅の購入、老後の資金、さらには財産の次世代への移管である贈与や相続などといった形で一生関わりのあるものである。この授業では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としている。						
到達目標	FP技能士3級レベルの知識を習得し、ライフプラン実現のための資金計画をどのように立てていけばいいのかわ、様々なケースを想定し具体的に立案し、必要が生じれば修正することができる。(態度・志向性)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要説明 2. 【まもる】社会保険の知識その1・・・医療、介護、労働保険について理解する 3. 【まもる】社会保険の知識その2・・・年金制度について理解する 4. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来発生する様々な出来事と、どれくらいのお金がかかるかを知る 5. 【しる】ライフプランニングその1(実習)・・・グループでひとつの家庭のライフイベントを考える 6. 【しる】ライフプランニングその2(実習)・・・グループで決定した家庭のライフプランニング表を作成 7. 【しる】ライフプランニングその3(発表)・・・グループ毎に発表し、何故そうなったか考察する 8. 【まもる】リスクマネジメント(生命保険の知識)・・・生命保険のしくみを理解する 9. 【まもる】リスクマネジメント(損害保険の知識)・・・損害保険のしくみを理解する 10. 【ふやす】金融商品のしくみ(各論)・・・預貯金、債券、株式について理解する 11. 【ふやす】金融商品のしくみ(総論)・・・リスクとリターン、資産運用方法を学ぶ 12. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を習得する 13. 【つかう】不動産の知識・・・土地、建物の購入、不動産の関する法律を理解する 14. 【このす】相続に関する知識・・・相続に関する法律上知っておくべき知識や税金について理解する 15. まとめと試験・・・FP3級レベルの試験と評価 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>日頃から新聞、テレビ等で経済に関する記事やニュースに興味を持って接すること(日経平均株価、為替レート、社会保険、税金の情報など)。</p> <p>【授業前準備】当日の授業計画及び講座内容に記載しているキーワードについて、当日を含む直近の新聞記事を読み、下調べをすること(学習時間2時間)。</p> <p>【授業後学習】当日のテキストを基に新聞やFP関連誌等で復習し、「本日のまとめ」を次回授業日に提出する(学習時間2時間)</p>						
授業方法	<p>講義方式、グループワークを交え、テキストにもどづいて授業を行う。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 1級ファイナンシャル・プランニング技能士(CFP)として実際にライフプランニングに携わる経験を基に3級ファイナンシャル・プランニング資格を目指してケーススタディーを通して指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>試験成績、課題提出やレポートと授業態度(授業に臨む姿勢)を総合的に評価する。 割合は、試験50%、課題、レポート提出10%、授業態度40%</p>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電卓を準備すること。 2. テキストは各回の出席者のみ配布する。 3. 授業回数数の3分の1以上欠席した人は試験の受験資格を失うものとする。 4. 15分以上の遅刻は欠席扱いにする。 						
教科書	<p>プリントを配布する。</p> <p>社会的要請により遠隔授業に変更の場合は、「3級FPスピードマスターテキスト(東京リーガルマインド社)」を指定する。</p>						
参考書	3級FPスピードマスターテキスト(東京リーガルマインド社)						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ファイナンシャル・プランニング／金融リテラシー						
担当教員	村田 正一					科目ナンバ-	Z22100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、それに連動する収支・支出計画を考察する。FP技能士3級レベルの社会保険、年金制度、生命保険、資産運用、税等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものである。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金制度、生命保険、貯蓄としての預貯金や株式等への投資、そして人生の3大資金といわれる子供の教育費、住宅の購入、老後の資金、さらには財産の次世代への移管である贈与や相続などといった形で一生関わりのあるものである。この授業では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としている。						
到達目標	FP技能士3級レベルの知識を習得し、ライフプラン実現のための資金計画をどのように立てていけばいいのかわ、様々なケースを想定し具体的に立案し、必要が生じれば修正することができる。(態度・志向性)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要説明 2. 【まもる】社会保険の知識その1・・・医療、介護、労働保険について理解する 3. 【まもる】社会保険の知識その2・・・年金制度について理解する 4. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来発生する様々な出来事と、どれくらいのお金がかかるかを知る 5. 【しる】ライフプランニングその1(実習)・・・グループでひとつの家庭のライフイベントを考える 6. 【しる】ライフプランニングその2(実習)・・・グループで決定した家庭のライフプランニング表を作成 7. 【しる】ライフプランニングその3(発表)・・・グループ毎に発表し、何故そうなったか考察する 8. 【まもる】リスクマネジメント(生命保険の知識)・・・生命保険のしくみを理解する 9. 【まもる】リスクマネジメント(損害保険の知識)・・・損害保険のしくみを理解する 10. 【ふやす】金融商品のしくみ(各論)・・・預貯金、債券、株式について理解する 11. 【ふやす】金融商品のしくみ(総論)・・・リスクとリターン、資産運用方法を学ぶ 12. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を習得する 13. 【つかう】不動産の知識・・・土地、建物の購入、不動産の関する法律を理解する 14. 【このす】相続に関する知識・・・相続に関する法律上知っておくべき知識や税金について理解する 15. まとめと試験・・・FP3級レベルの試験と評価 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>日頃から新聞、テレビ等で経済に関する記事やニュースに興味を持って接すること(日経平均株価、為替レート、社会保険、税金の情報など)。</p> <p>【授業前準備】当日の授業計画及び講座内容に記載しているキーワードについて、当日を含む直近の新聞記事を読み、下調べをすること(学習時間2時間)。</p> <p>【授業後学習】当日のテキストを基に新聞やFP関連誌等で復習し、「本日のまとめ」を次回授業日に提出する(学習時間2時間)</p>						
授業方法	<p>講義方式、グループワークを交え、テキストにもどづいて授業を行う。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 1級ファイナンシャル・プランニング技能士(CFP)として実際にライフプランニングに携わる経験を基に3級ファイナンシャル・プランニング資格を目指してケーススタディーを通して指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>試験成績、課題提出やレポートと授業態度(授業に臨む姿勢)を総合的に評価する。 割合は、試験50%、課題、レポート提出10%、授業態度40%</p>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電卓を準備すること。 2. テキストは各回の出席者のみ配布する。 3. 授業回数数の3分の1以上欠席した人は試験の受験資格を失うものとする。 4. 15分以上の遅刻は欠席扱いにする。 						
教科書	<p>プリントを配布する。</p> <p>社会的要請により遠隔授業に変更の場合は、「3級FPスピードマスターテキスト(東京リーガルマインド社)」を指定する。</p>						
参考書	3級FPスピードマスターテキスト(東京リーガルマインド社)						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	青谷 実知代・濱岡 美衣					科目ナンバ-	Z21080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。【態度・志向性】 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。【態度・志向性】 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。（学習時間4時間） 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。 【実務経験のある教員等による授業】 過去にエアライン業界で働いていた講師が、ホスピタリティ産業の仕事としてのコミュニケーション、行動様式、「おもてなし」の文化などを事例研究やグループディスカッションの形式で指導する。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物20%（各回講義テーマに沿った内容についてのレポート） ・第15回まとめレポート50% ・平常点30%（授業内での質疑応答や課題に対する考察や提案など） ・詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
履修上の注意	・授業中に各テーマに沿ってレポート作成を行う。授業内容を理解し、受講生自身の考えが自分の言葉で表現できるように講義を受けることを期待する。 ・ホスピタリティをテーマに行うことから常に周囲にホスピタリティを持って行動すること。 ・グループワークや実習に積極的に取り組み、必ず日常生活のあらゆる場面で活用すること。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	青谷 実知代・濱岡 美衣					科目ナンバ-	Z21080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。【態度・志向性】 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。【態度・志向性】 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。（学習時間4時間） 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。 【実務経験のある教員等による授業】 過去にエアライン業界で働いていた講師が、ホスピタリティ産業の仕事としてのコミュニケーション、行動様式、「おもてなし」の文化などを事例研究やグループディスカッションの形式で指導する。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物20%（各回講義テーマに沿った内容についてのレポート） ・第15回まとめレポート50% ・平常点30%（授業内での質疑応答や課題に対する考察や提案など） ・詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
履修上の注意	・授業中に各テーマに沿ってレポート作成を行う。授業内容を理解し、受講生自身の考えが自分の言葉で表現できるように講義を受けることを期待する。 ・ホスピタリティをテーマに行うことから常に周囲にホスピタリティを持って行動すること。 ・グループワークや実習に積極的に取り組み、必ず日常生活のあらゆる場面で活用すること。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	青谷 実知代・濱岡 美衣					科目ナンバ-	Z21080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。【態度・志向性】 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。【態度・志向性】 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。（学習時間4時間） 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。 【実務経験のある教員等による授業】 過去にエアライン業界で働いていた講師が、ホスピタリティ産業の仕事としてのコミュニケーション、行動様式、「おもてなし」の文化などを事例研究やグループディスカッションの形式で指導する。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物20%（各回講義テーマに沿った内容についてのレポート） ・第15回まとめレポート50% ・平常点30%（授業内での質疑応答や課題に対する考察や提案など） ・詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
履修上の注意	・授業中に各テーマに沿ってレポート作成を行う。授業内容を理解し、受講生自身の考えが自分の言葉で表現できるように講義を受けることを期待する。 ・ホスピタリティをテーマに行うことから常に周囲にホスピタリティを持って行動すること。 ・グループワークや実習に積極的に取り組み、必ず日常生活のあらゆる場面で活用すること。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	青谷 実知代・濱岡 美衣					科目ナンバ-	Z21080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。【態度・志向性】 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。【態度・志向性】 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。（学習時間4時間） 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。 【実務経験のある教員等による授業】 過去にエアライン業界で働いていた講師が、ホスピタリティ産業の仕事としてのコミュニケーション、行動様式、「おもてなし」の文化などを事例研究やグループディスカッションの形式で指導する。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物20%（各回講義テーマに沿った内容についてのレポート） ・第15回まとめレポート50% ・平常点30%（授業内での質疑応答や課題に対する考察や提案など） ・詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
履修上の注意	・授業中に各テーマに沿ってレポート作成を行う。授業内容を理解し、受講生自身の考えが自分の言葉で表現できるように講義を受けることを期待する。 ・ホスピタリティをテーマに行うことから常に周囲にホスピタリティを持って行動すること。 ・グループワークや実習に積極的に取り組み、必ず日常生活のあらゆる場面で活用すること。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	簿記・会計の基礎／簿記・会計A						
担当教員	倉島 進					科目ナンバ-	Z21060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業の活動や経営を理解するために必要な日商簿記初級レベルの簿記の基本的な知識を習得する。						
授業の概要	<p>・社会にはさまざまな企業が存在し、儲けるために日々活動しています。企業の活動には、必ずお金の動きが伴いますが、経営者は、このお金の動きについて記録し、報告書を作成し、報告しなければなりません。この記録・作成の一定のルールが簿記で、簿記を用いて作成された報告書を報告する一定のルールが会計です。簿記は会計の一部であり、会計の入門的な位置づけとなります。</p> <p>・簿記・会計は、お金の動きという視点から企業の活動を捉えることです。簿記・会計の学びを通じて、企業が儲けるためにどのような活動をしているのか、企業の経営のしくみについても勉強することになります。</p> <p>・今日、簿記の基本的な知識は、企業の活動や経営を理解するため、経理・会計担当者のみならず、業種・職種を問わずビジネスパーソンすべてに必要とされています。そして、簿記が必要であることは、就職活動を控える学生のみならず、志望する企業の報告書を用いて「現状はどうか、今後伸びる企業か」などを分析し、判断材料とすることもできるからです。</p> <p>・本科目では、日商簿記初級の範囲を主たる対象とし、業種・職種に関わらずビジネスパーソンが日常業務をこなすための基礎知識について説明します。具体的には、①簿記の全体像、②簿記の基本用語や複式簿記の仕組み、を理解し、業務に活用することができるレベルを目指しています。したがって、日商簿記3級に挑戦する方は、本科目の受講後、「簿記・会計の実践」を続けて受講することをお勧めします。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の基本的な知識は、企業の活動や経営を理解するために必要なものであることが分かる。【知識・理解】 2. ビジネスパーソンとして必要な、簿記の基本的な知識とは何か分かる。【知識・理解】 3. 学んだ簿記の基本的な知識をどのように活かしていくことができるのか、イメージすることができる。【態度・志向性】 4. 簿記の基本的な知識を学ぶプロセスを通じて、自分と企業、企業と社会との関係性について意識できるようになる。【態度・志向性】 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション（簿記とは何か？） 第2回 簿記の世界へようこそ！ 第3回 簿記を使って記録してみよう（勘定科目について） 第4回 簿記を使って記録してみよう（仕訳のしくみ） 第5回 簿記を使って記録してみよう（集計のしくみ） 第6回 報告書を作ってみよう（今までのまとめ） 第7回 現金とはなにか？ 第8回 商品売買のしくみ 第9回 商品売買のしくみ実践 第10回 手形取引 第11回 固定資産の売買とその処理 第12回 その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 第13回 その場面ではこの仕訳（税金について） 第14回 その場面ではこの仕訳（資本金の話） 第15回 総まとめと試験 <p>【留意点】 受講者数、受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をする可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>予習をするより、授業後の学習を徹底してください。授業は、みなさんが授業時間外の学習をしやすくするための導入作りの場という意味合いが強いです。</p> <p>・授業前準備学習：授業が進み回数を重ねるほど復習の範囲が広がるため、自然と授業後の学習時間が増えてきます。それが結果として次回の授業前準備学習となります。（学習時間：週2時間）</p> <p>・授業後学習：配布した授業資料と教科書を読み込み、理解を深めてください。授業資料や教科書に出てきた問題を繰り返し解いてください。必要に応じて、Webで自由に閲覧できる動画の視聴を求めます。（学習時間：週2時間）</p>						
授業方法	<p>・教科書である「知る・わかる・わかる はじめての簿記入門」を徹底的に理解することをコンセプトに授業を進めます。</p> <p>・各回のテーマに沿って「授業資料」を配布し、講義を行います。その中で、各回テーマについて押さえるべき論点を特定し、用語や仕訳に関する問題を提示していきます。</p> <p>・提示した問題に関する演習は、個人ワークとして、授業内・外で行っていただきます。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 会計のプロフェッショナルである公認会計士として、日商簿記初級レベルの簿記の基本的な知識について、講義と演習を通じて説明します。</p>						
評価基準と評価方法	<p>・平常点 50%：リアクションペーパー、小テスト、授業中の発表等</p> <p>・試験 50%：期末テスト（中間テストを行う場合や、レポート形式の試験となる場合があります）</p>						

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none">・簿記は、他の科目と比べると、日々の地道な積み重ねが大切になる科目です。授業時間外にも、ある程度の時間をかけることが必要であり、決して授業を受けるだけで習得できるような楽な科目ではありません。そこは覚悟の上ご受講ください。・日々地道に積み重ねるといことは、日常生活に簿記にふれることを習慣として取り入れるということでもあります。できるかぎり授業には毎回出席し、定期的・継続的な学習を心掛け、ご自身の心地よい学習リズムを構築してください。やむを得ず授業を欠席する場合は、次回までに必ずご自身で補っておくようにしてください。・その他の受講に際しての注意事項（受講者の心得、授業進行上のルールなど）については、初回授業時以降、随時お伝えします。
教科書	「知る・わかる・わかる はじめての簿記入門（令和2年2月改訂）」 倉島進・川田崇之・中村智佐著、セルバ出版、ISBN78-4-86367-566-7
参考書	授業内でお伝えします。

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	簿記・会計の基礎／簿記・会計A						
担当教員	得田 知栄子					科目ナンバ-	Z21060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業の活動や経営を理解するために必要な日商簿記初級レベルの簿記の基本的な知識を習得する。						
授業の概要	<p>・社会にはさまざまな企業が存在し、儲けるために日々活動しています。企業の活動には、必ずお金の動きが伴いますが、経営者は、このお金の動きについて記録し、報告書を作成し、報告しなければなりません。この記録・作成の一定のルールが簿記で、簿記を用いて作成された報告書を報告する一定のルールが会計です。簿記は会計の一部であり、会計の入門的な位置づけとなります。</p> <p>・簿記・会計は、お金の動きという視点から企業の活動を捉えることですから、簿記・会計の学びを通じて、企業が儲けるためにどのような活動をしているのか、企業の経営のしくみについても勉強することになります。</p> <p>・今日、簿記の基本的な知識は、企業の活動や経営を理解するため、経理・会計担当者のみならず、業種・職種を問わずビジネスパーソンすべてに必要とされています。そして、簿記が必要であることは、就職活動を控える学生のみならず、志望する企業の報告書を用いて「現状はどうか、今後伸びる企業か」などを分析し、判断材料とすることもできるからです。</p> <p>・本科目では、日商簿記初級の範囲を主たる対象とし、業種・職種に関わらずビジネスパーソンが日常業務をこなすための基礎知識について説明します。具体的には、①簿記の全体像、②簿記の基本用語や複式簿記の仕組み、を理解し、業務に活用することができるレベルを目指しています。したがって、日商簿記3級に挑戦する方は、本科目の受講後、「簿記・会計の実践」を続けて受講することをお勧めします。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の基本的な知識は、企業の活動や経営を理解するために必要なものであることが分かる。【知識・理解】 2. ビジネスパーソンとして必要な、簿記の基本的な知識とは何か分かる。【知識・理解】 3. 学んだ簿記の基本的な知識をどのように活かしていくことができるのか、イメージすることができる。【態度・志向性】 4. 簿記の基本的な知識を学ぶプロセスを通じて、自分と企業、企業と社会との関係性について意識できるようになる。【態度・志向性】 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション（簿記とは何か？） 第2回 簿記の世界へようこそ！ 第3回 簿記を使って記録してみよう（勘定科目について） 第4回 簿記を使って記録してみよう（仕訳のしくみ） 第5回 簿記を使って記録してみよう（集計のしくみ） 第6回 報告書を作ってみよう（今までのまとめ） 第7回 現金とはなにか？ 第8回 商品売買のしくみ 第9回 商品売買のしくみ実践 第10回 手形取引 第11回 固定資産の売買とその処理 第12回 その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 第13回 その場面ではこの仕訳（税金について） 第14回 その場面ではこの仕訳（資本金の話） 第15回 総まとめと試験 <p>【留意点】 受講者数、受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をする可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>予習をするより、授業後の学習を徹底してください。授業は、みなさんが授業時間外の学習をしやすくするための導入作りの場という意味合いが強いです。</p> <p>・授業前準備学習：授業が進み回数を重ねるほど復習の範囲が広がるため、自然と授業後の学習時間が増えてきます。それが結果として次回の授業前準備学習となります。（学習時間：週2時間）</p> <p>・授業後学習：配布した授業資料と教科書を読み込み、理解を深めてください。授業資料や教科書に出てきた問題を繰り返し解いてください。必要に応じて、Webで自由に閲覧できる動画の視聴を求めます。（学習時間：週2時間）</p>						
授業方法	<p>・教科書である「知る・わかる・わかる はじめての簿記入門」を徹底的に理解することをコンセプトに授業を進めます。</p> <p>・各回のテーマに沿って「授業資料」を配布し、講義を行います。その中で、各回テーマについて押さえるべき論点を特定し、用語や仕訳に関する問題を提示していきます。</p> <p>・提示した問題に関する演習は、個人ワークとして、授業内・外で行っていただきます。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 会計のプロフェッショナルである公認会計士として、日商簿記初級レベルの簿記の基本的な知識について、講義と演習を通じて説明します。</p>						
評価基準と評価方法	<p>・平常点 50%：リアクションペーパー、小テスト、授業中の発表等</p> <p>・試験 50%：期末テスト（中間テストを行う場合や、レポート形式の試験となる場合があります）</p>						

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none">・簿記は、他の科目と比べると、日々の地道な積み重ねが大切になる科目です。授業時間外にも、ある程度の時間をかけることが必要であり、決して授業を受けるだけで習得できるような楽な科目ではありません。そこは覚悟の上ご受講ください。・日々地道に積み重ねるといふことは、日常生活に簿記にふれることを習慣として取り入れるということでもあります。できるかぎり授業には毎回出席し、定期的・継続的な学習を心掛け、ご自身の心地よい学習リズムを構築してください。やむを得ず授業を欠席する場合は、次回までに必ずご自身で補っておくようにしてください。・その他の受講に際しての注意事項（受講者の心得、授業進行上のルールなど）については、初回授業時以降、随時お伝えします。
教科書	「知る・わかる・わかる はじめての簿記入門（令和2年2月改訂）」 倉島進・川田崇之・中村智佐著、セルバ出版、ISBN78-4-86367-566-7
参考書	授業内でお伝えします。

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	簿記・会計の実践／簿記・会計B						
担当教員	得田 知栄子					科目ナンバ-	Z21070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「簿記・会計の基礎」の内容を踏まえて、企業の活動や経営を理解するために必要な日商簿記3級レベルの簿記の基本的な知識を習得する。						
授業の概要	<p>・社会にはさまざまな企業が存在し、儲けるために日々活動しています。企業の活動には、必ずお金の動きが伴いますが、経営者は、このお金の動きについて記録し、報告書を作成し、報告しなければなりません。この記録・作成の一定のルールが簿記で、簿記を用いて作成された報告書を報告する一定のルールが会計です。簿記は会計の一部であり、会計の入門的な位置づけとなります。</p> <p>・簿記・会計は、お金の動きという視点から企業の活動を捉えることです。簿記・会計の学びを通じて、企業が儲けるためにどのような活動をしているのか、企業の経営のしくみについても勉強することになります。</p> <p>・今日、簿記の基本的な知識は、企業の活動や経営を理解するため、経理・会計担当者のみならず、業種・職種を問わずビジネスパーソンすべてに必要とされています。そして、簿記が必要であることは、就職活動を控える学生のみならず、志望する企業の報告書を用いて「現状はどうか、今後伸びる企業か」などを分析し、判断材料とすることもできるからです。</p> <p>・本科目では、多くの企業から評価される資格である日商簿記3級の範囲を対象とし、業種・職種にかかわらずビジネスパーソンが身に付けておくべき「必須の基本知識」を説明します。具体的には、小規模な株式会社における企業の活動や会計実務を踏まえ、経理関連書類の適切な処理を行うために求められるレベルの基本的な知識の習得を目指します。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の基本的な知識は、企業の活動や経営を理解するために必要なものであることが分かる。【知識・理解】 2. ビジネスパーソンとして必要な、簿記の基本的な知識とは何かが分かる。【知識・理解】 3. 学んだ簿記の基本的な知識をどのように活かしていくことができるのか、イメージすることができる。【態度・志向性】 4. 簿記の基本的な知識を学ぶプロセスを通じて、自分と企業、企業と社会との関係性について意識できるようになる。【態度・志向性】 						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、簿記・会計の基礎の復習①（仕訳）</p> <p>第2回 簿記・会計の基礎の復習②（総勘定元帳への転記・試算表への集計・財務諸表の作成）、試算表のしくみ</p> <p>第3回 簿記・会計の基礎の復習③（主として仕訳、試算表の作成）</p> <p>第4回 決算の全体像とその流れ</p> <p>第5回 決算整理仕訳①（現金過不足の雑損雑益振替、当座預金マイナス残高の負債振替、費用処理した項目の貯蔵品への振替）</p> <p>第6回 決算整理仕訳②（収益と費用の前払い・前受けと未収・未払いの計上）</p> <p>第7回 決算整理仕訳③（固定資産の減価償却）</p> <p>第8回 決算整理仕訳④（貸倒引当金の設定）</p> <p>第9回 決算整理仕訳⑤（商品売上原価の算定）</p> <p>第10回 精算表の作成</p> <p>第11回 帳簿の締め切り、決算整理仕訳⑥（決算振替仕訳（利益の会計処理））</p> <p>第12回 財務諸表の作成、帳簿</p> <p>第13回 決算整理仕訳⑦（消費税の処理、法人税の処理）、株式会社会計（剰余金の配当を含む）</p> <p>第14回 伝票・証ひょう</p> <p>第15回 期末テストと総まとめ</p> <p>【留意点】</p> <p>・当科目は、「簿記・会計の基礎」の復習も大きな割合を占めます。具体的には、第1回から第3回は、①簿記の全体像と、②簿記の基本用語や複式簿記の仕組みについて、第4回以降は、期中手続きにおける期中仕訳について、「簿記・会計の実践」の新しい学びに加えて、随時取り上げます。</p> <p>・受講者数、受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をする可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>予習をするより、授業後の学習を徹底してください。授業は、みなさんが授業時間外の学習をしやすくするための導入作りの場という意味合いが強いです。</p> <p>・授業前準備学習：授業が進み回数を重ねるほど復習の範囲が広がるため、自然と授業後の学習時間が増えてきます。それが結果として次回の授業前準備学習となります。（学習時間：週2時間）</p> <p>・授業後学習：配布した授業資料と教科書を読み込み、理解を深めてください。授業資料や教科書に出てきた問題を繰り返し解いてください。必要に応じて、Webで自由に閲覧できる動画の視聴を求めます。（学習時間：週2時間）</p>						
授業方法	<p>・教科書である「知る・わかる・うかる はじめての簿記入門」を徹底的に理解することをコンセプトに授業を進めます。</p> <p>・各回のテーマに沿って「授業資料」を配布し、講義を行います。その中で、各回テーマについて押さえるべき論点を特定し、用語や仕訳に関する問題を提示していきます。</p> <p>・提示した問題に関する演習は、個人ワークとして、授業内・外で行っていただきます。</p> <p>・なお、「簿記・会計の基礎」で学んだ範囲も扱いますが、授業外で解いていただくことが多くなります。したがって、「簿記・会計の基礎」以上に、時間外の学習を求めます。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】</p> <p>会計のプロフェッショナルである公認会計士として、日商簿記3級レベルの簿記の基本的な知識について、講義と演習を通じて説明します。</p>						

評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 50%：リアクションペーパー、小テスト、授業中の発表等 ・試験 50%：期末テスト（中間テストを行う場合や、レポート形式の試験となる場合があります）
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目「簿記・会計の実践」の受講は、「簿記・会計の基礎」の履修者あるいは、それと同等以上の知識があると認められる方（例えば、日商簿記初級を合格しているなど）に限ります。どうしてもという場合は、第1回オリエンテーションに出席しご相談ください。上記授業方法にも記載しておりますよう、「簿記・会計の基礎」で学んだ範囲も扱うものの、授業外における演習素材をご提供する形がメインとなります。かなりタフな講義となることが想定されるからです。 ・簿記は、他の科目と比べると、日々の地道な積み重ねが大切になる科目です。授業時間外にも、ある程度の時間をかけることが必要であり、決して授業を受けるだけで習得できるような楽な科目ではありません。そこは覚悟の上ご受講ください。 ・日々地道に積み重ねるということは、日常生活に簿記にふれることを習慣として取り入れるということでもあります。できるかぎり授業には毎回出席し、定期的・継続的な学習を心掛け、ご自身の心地よい学習リズムを構築してください。やむを得ず授業を欠席する場合は、次回までに必ずご自身で補っておくようにしてください。 ・その他の受講に際しての注意事項（受講者の心得、授業進行上のルールなど）については、初回授業時以降、随時お伝えします。
教科書	<p>「知る・わかる・わかる はじめての簿記入門（令和2年2月改訂）」 倉島進・川田崇行・中村智佐著、セルバ出版、ISBN78-4-86367-566-7</p>
参考書	<p>授業内でお伝えします。</p>